

# 計画段階評価対応方針

## 計画段階評価対応方針(酒田港)

【港湾整備事業】

実施箇所	解決すべき課題等	達成すべき政策目標等	複数案との比較	対応方針
酒田港外港地区	<p>・港内静穏度の確保。                      ・既定計画における防波堤配置では、最上川の流下土砂の更なる港内への堆積が懸念される。</p>	<p>①港内静穏度の確保</p>	<p>【案①】第二北防波堤490m延伸                      (事業実施による効果)                      ・港内静穏度の確保                      (事業実施による課題)                      ・最上川の流下土砂の更なる港内への堆積に伴い維持浚渫コストが高くなる。</p> <p>【案②】第二北防波堤490m延伸、南防波堤600m延伸                      (事業実施による効果)                      ・港内静穏度の確保                      ・最上川の流下土砂の更なる港内への堆積を防ぐ。                      (事業実施に伴う課題)                      ・南防波堤の整備により全体コストが高くなる。</p> <p>【案③】防波堤(沖)600m                      (事業実施による効果)                      ・港内静穏度の確保                      ・最上川の流下土砂の更なる港内への堆積を防ぐ。</p>	<p>【案③】による対策が妥当</p> <p>【理由】                      維持浚渫を含めた概算コストについて案③が優位と考えられるため。</p>
酒田港北港地区	<p>・今後、クルーズ船の寄港回数の増加が見込まれる。                      ・バルク貨物を取り扱う船舶の大型化及び寄港回数の増加が見込まれる。</p>	<p>①クルーズ船の寄港回数の増加への対応                      ②バルク貨物船の大型化・寄港回数増加への対応</p>	<p>【案①】古湊1号岸壁(水深13m、延長270m)、古湊2号岸壁改良(水深12m、延長230m)、古湊3号岸壁改良(水深10m、延長180m)                      (事業実施による効果)                      ・クルーズ船の寄港回数増加への対応                      ・バルク貨物船の大型化・寄港回数増加への対応                      (事業実施に伴う課題)                      ・金属くず等を輸出する大型バルク船(岸壁必要水深12m)とクルーズ船が同時入港する場合、クルーズ船が金属くずヤードと近接して着岸することとなり、クルーズ客から見た景観面で好ましくない。</p> <p>【案②】古湊1号岸壁(水深13m、延長270m)、古湊2号岸壁(水深10m、延長185m)、古湊3号岸壁改良(水深12m、延長230m)                      (事業実施による効果)                      ・金属くず等を輸出する大型バルク船(岸壁必要水深12m)とクルーズ船が同時入港する場合も、クルーズ船が金属くずヤードからの離隔を確保でき、クルーズ客から見た景観面で好ましい。</p>	<p>【案②】による対策が妥当</p> <p>【理由】                      概算コスト・事業期間に差はないが、官民連携により金属くず輸出の効率化に取組みつつ、積極的な船社招請を行いクルーズ振興に取組んでいく戦略に鑑み、景観面の運用上の観点から、案②が優位であると考えられるため。</p>